

平成 29 年 4 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 S H I F T
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 丹 下 大
 (コード番号:3697 東証マザーズ)
 問 合 せ 先 執 行 役 員 C F O 益 子 和 也
 (TEL. 03-6809-1165)

平成 29 年 8 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想と実績値との差異
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 28 年 10 月 12 日に公表いたしました平成 29 年 8 月期の第 2 四半期 (累計) (平成 28 年 9 月 1 日から平成 29 年 2 月 28 日) 連結業績予想と実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績の動向を踏まえ、当社は平成 29 年 4 月 12 日開催の取締役会において、通期業績予想を下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 8 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値との差異

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,498	122	139	65	4 55
今回発表実績(B)	3,396	74	98	27	1 88
増減額(B-A)	△102	△48	△41	△38	—
増減率(%)	△2.9	△39.2	△29.7	△58.6	—
(参考)前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 8 月期第 2 四半期実績)	2,512	202	206	130	9 06

2. 平成 29 年 8 月期通期業績予想数値の修正

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,498	575	603	331	23 04
今回修正予想(B)	8,100	230	280	120	8 33
増減額(B-A)	△398	△345	△323	△211	—
増減率(%)	△4.7	△60.0	△53.6	△63.7	—
(参考)前期実績 (平成 28 年 8 月期実績)	5,511	517	569	307	21 40

3. 第 2 四半期（累計）連結業績予想数値との差異

当第 2 四半期累計期間の業績につきましては、堅調な受注環境を維持しながら、新たに株式会社メソドロジックとバリストライドグループ株式会社を連結したことにより、売上高については、対前年同期比 35.2%と順調に推移いたしました。

当社グループは、来期以降を見越した戦略的先行投資として、当期の売上高に直接的には結びつかない大規模かつ高難易度の案件を有する各業界のトップ企業に対し、新規顧客開拓活動を積極的に展開いたしました。また、期初からこの将来の成長を支えるために必要な人材の採用・教育についても当初の想定よりも積極的に行いました。この結果、当第 2 四半期累計期間につきましては、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は当初予想を下回る結果となりました。

4. 通期業績予想修正の理由

当社グループでは国内ソフトウェアテスト市場を約 5 兆円の規模と見込んでおり、ソフトウェアテストに対する需要はあるものの顕在化しているのはまだまだ少なく、これを顕在化するために地道な活動を行ってまいりました。これが最近、ソフトウェアテストの有用性が各業界トップ企業をはじめとして広く認知されはじめ、その需要が顕在化される機運が高まりを見せ始めたと考えております。

当社グループは、今後も既存顧客からの継続的な堅調な受注と連結子会社の順調な拡大により足元の成長を確保する見込みであります。大規模かつ高難易度の案件を有する各業界トップ企業などへの戦略的な新規顧客開拓活動は、ハイスキルな人材を多く投入し、これまでよりも長い提案フェーズを要するため、一時的に、売上高の伸びを抑制し、利益率を悪化させる要因となります。しかしながら、ソフトウェアテストのアウトソーシングが急拡大するこの流れを確実に捉えるため、戦略的な新規顧客開拓活動とこれを支えるハイスキル人員の積極的な採用に、当初の想定よりも経営資源を集中的に投下することとし、通期の予想につきまして総合的に見直した結果、通期業績予想を修正することといたしました。

※上記の予想は、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実績の業績は今後様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上